

# 地理歴史科教育論



---

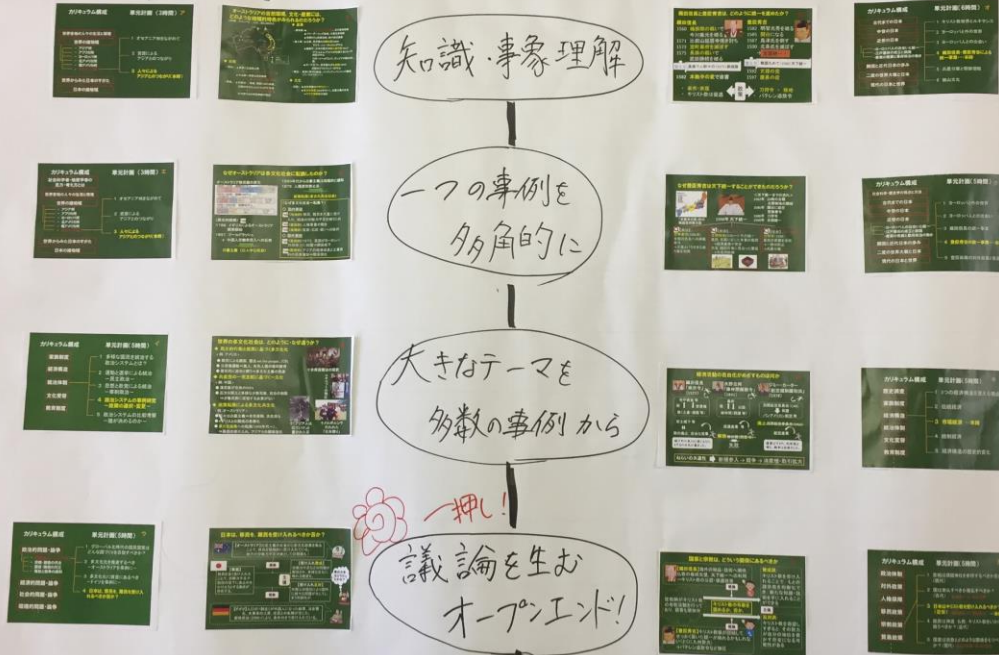
## 第5-6講 目標とカリキュラムの関係

— 3冊の教科書比較で考える —

# 配列のパターン①

1、2、3、4、5、6、7、8、10、12、13、  
14、15、16、17、18、20(班)

## 生徒達が「考える」授業



生徒が意見が出しやすいため、能動的に授業に参加できるから。

18 到年

教科書の記述  
の網羅  
(ア A G オ)

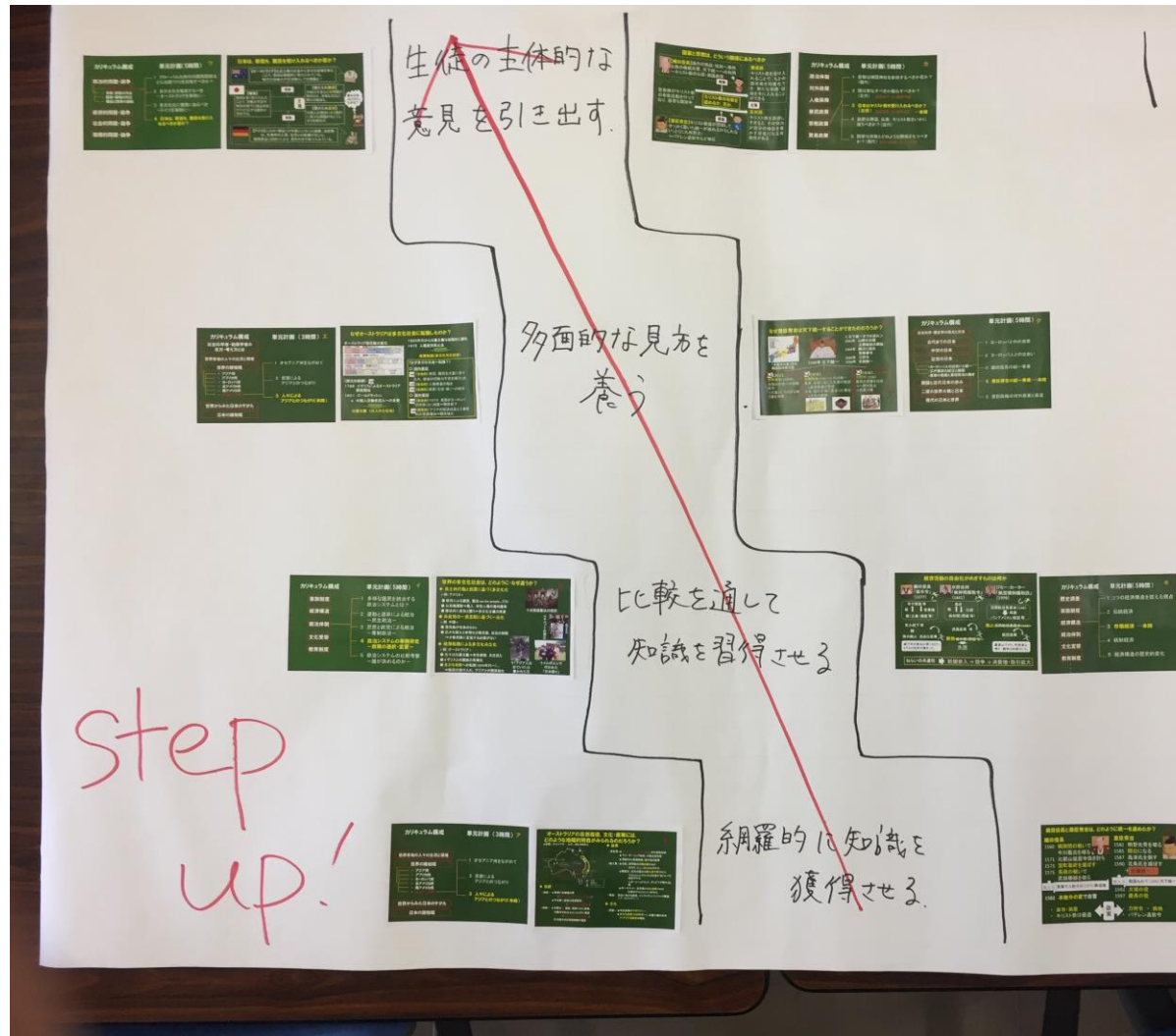
一事象を様々な  
視点で考察  
(エ D H ク)

複数の事象の  
比較  
(イ B H キ)

事例を根拠に  
主張をつくる  
(ウ C F カ)

# 配列のパターン②

9、19(班)



事例を根拠に  
主張をつくる  
(ウ C F カ)

一事象を様々  
な視点で考察  
(エ D H ク)

複数の事象の  
比較  
(イ B H キ)

教科書の記述  
の網羅  
(ア A G オ)

# 配列のパターン③

11(班)

授業構成

基礎知識の形成

事象・背景の理解

自分の意見を持つ

多角的に社会を捉える

教科書の記述の網羅 (ア A G オ)

一事象を様々な視点で考察 (エ D H ク)

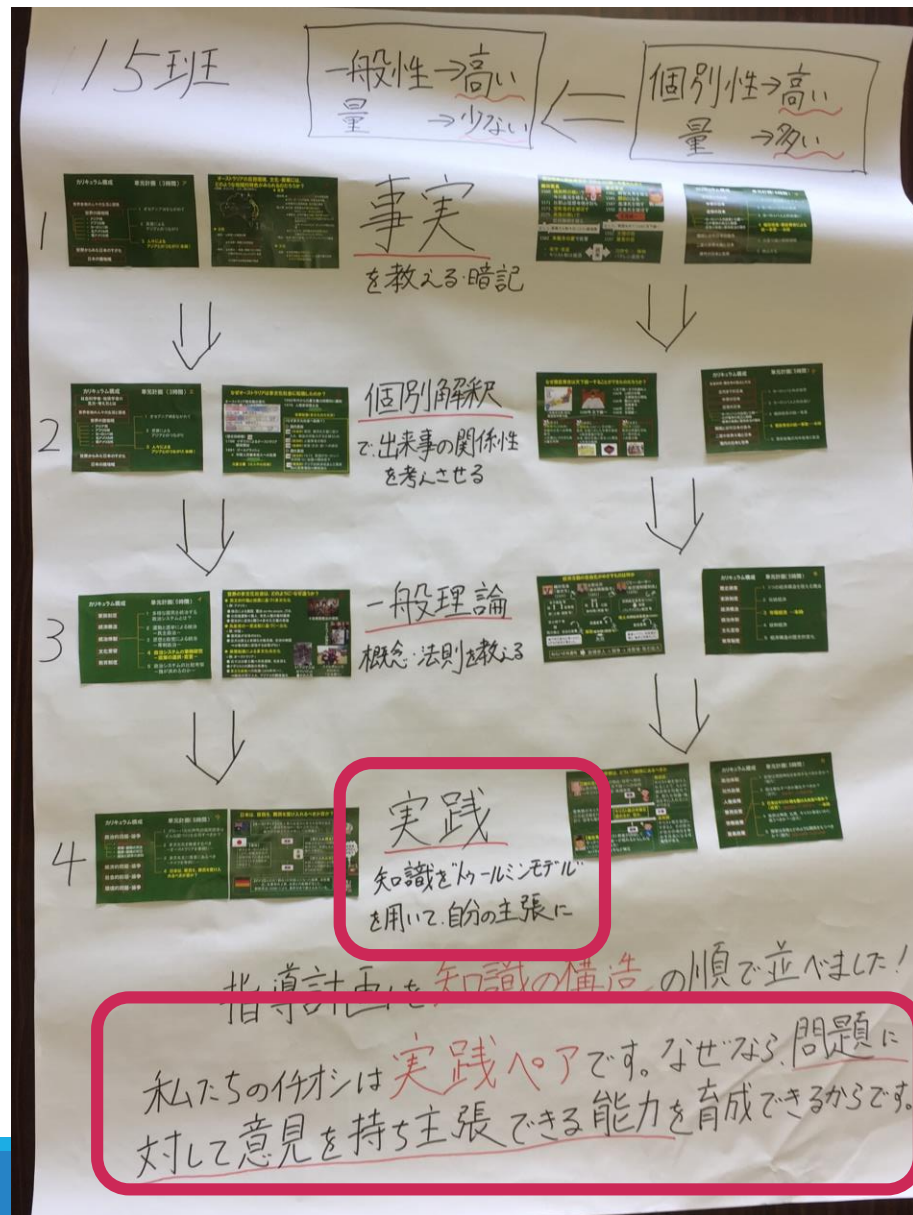
事例を根拠に主張をつくる (ウ C F カ)

複数の事象の比較 (イ B H キ)

# 各班が選んだイチオシ

- ① 事例を根拠に主張をつくるタイプ (ウCFカ)
  - 2、5、10、14、15、16、18 (班)
  
- ② 複数の事象を比較するタイプ (イBHキ)
  - 4 (班)
  
- ③ 事象を様々な視点で考察 (エDHク)
  - 1、3、6、7、9、11、17、 (班)
  
- ④ 明記していない、班で1つのイチオシに絞れなかったグループ
  - 8、12、13、19、20 (班)

# イチオシとその理由の例①



イチオシ：事例を根拠  
に主張をつくるタイプ  
(ウCF力)

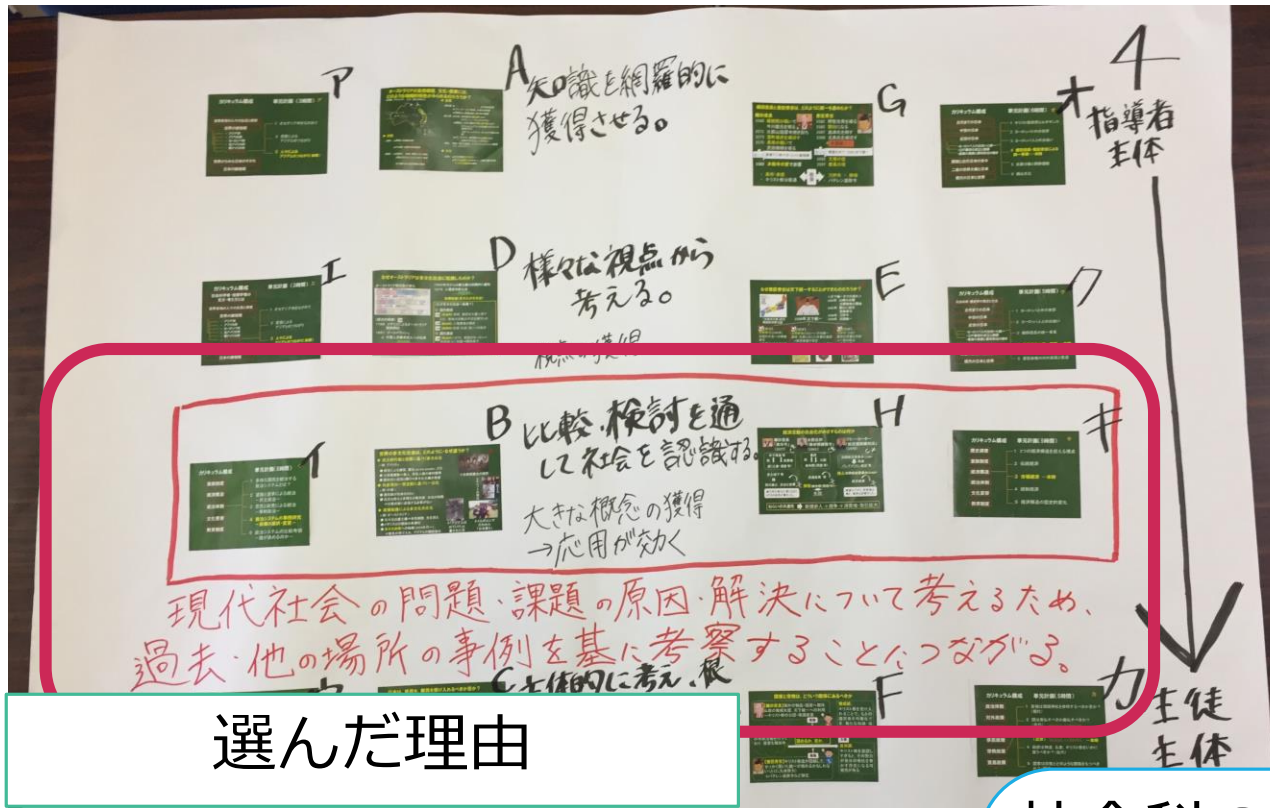
2、5、10、14、15、16、18(班)

選んだ理由

問題に対して意見を持ち  
主張できる能力を育  
成できるから

問題に対する主張づくり  
(市民としての実践力)  
を、社会科の授業で行い  
育成することが望ましい

# イチオシとその理由の例②



イチオシ：  
複数の事象の  
比較をする  
タイプ  
(イ B H キ)  
4(班)

## 選んだ理由

現代社会の問題・課題  
の原因・解決について  
考えるため、過去・他  
の場所の事例をもとに  
考察することに繋がる

社会科の授業を通して、  
転移・応用（さまざまな  
事象を考えるために使える）  
できる概念を獲得させ  
ることが望ましい

# イチオシとその理由の例③



イチオシ：  
一事象を様々な視点で考察  
(EDHK)

1、3、6、7、9、  
11、17、(班)

社会科の目標・役割

知識獲得と考察・分析  
のバランスが取れているから



社会科の授業では、ある  
程度確実に知識を獲得さ  
せることが必要である



# イチオシを記入していない班の例

8、12、13、19、20(班)

選ばなかった理由

4人の「教育観」「国家観（市民観）」が異なっていて定められなかった

12

社会形成力の養成

Yes or No?

論争問題に  
対し  
主体的に  
判断する  
態度を身に付けたい (政策選択)

諸政策を  
相対化  
すること  
でよい (社会の監視)

Why?

科学的に  
事象を分析  
できる力を  
育みたい (説明)

たぐひの  
知識を  
身に付けさせたい  
(密着的教育的・教育的)

社会認識力の養成

How・What?

「一押しです」は決められなかった  
(4人の「教育観」「国家観」が異なっていて定められなかった)  
(「市民観」)

# 地理歴史科教育のジレンマ

国家権力は、公教育を通して、どこまでどのように  
個々人の**生き方・こころ**に介入できるのか

## 統治・支配の場

- ・ 共通性
- ・ 共同・社会化を
- ・ 教養や技能
- ・ 愛情や自覚

戦前の  
社会系教育

教養的  
地理歴史  
理解教育

科学的な  
地域時代  
分析教育

科学的な  
概念探求  
教育

政治的な  
社会構想  
教育

戦後初期の  
社会系教育

## 自立・自律の支援

- ・ 多様性
- ・ 個人・対抗社会化
- ・ 思考や参加を
- ・ 知性や批判を

# 科学的な地域時代分析教育とは

## 教養的地理歴史理解教育の漸進的変革

- (1) 表面的には、地域(系統)・時代別に事象を網羅する内容編成を継承する→**教養主義の継承**
- (2) 実質的には、ミクロな「なぜ・どうして」を捉える地域・時代の研究に変質→**科学主義の強化**
- (3) 地理歴史カリキュラムを、事実上、**公民教育化し、政治・経済・社会的な問題関心**から地域・時代の事象に迫ろうとする→**实用主義への移行**

**社会の見方・考え方を働かせて、事象を分析する**  
他所・過去を分かるための地理・歴史教育

# 科学的な概念探求教育とは何か

## 科学的・地域時代分析教育の根本的変革

- (1) 表面的には、今・ココの社会の仕組みや他の選択可能性を考える教科へ→**实用主義の徹底**
- (2) 実質的には、政治学・経済学・社会学・人類学等の概念や分析方法を探求→**科学主義の強化**
- (3) しかし、地域像・歴史像そのものの形成は諦めるが、地理・歴史の事実も可能な限り伝えておきたい→**教養主義の残滓**

地域・時代を手段にして、社会の見方・考え方を捉える  
現代社会を分かるための地理・歴史教育

# 政治的な社会構想教育とは何か

## 科学的社会概念探求教育の抜本的変革

- (1) 表面的には、現代社会の認識だけではなく、未来社会を構想する教科へ→**实用主義の継承**
- (2) 実質的には、議論・意思決定したり、代案を提起したり、参加・行動を支援→**政治的有能性の強化**
- (3) 地理・歴史の事実は、資料(史料)として積極的に活用→**教養主義への配慮**

地域・時代を手段にして、判断基準や行動力を育成する  
未来社会をつくるための地理・歴史教育



# 演習課題1

## 地理・歴史教育のバリエーションを考えよう

- (1) **地理**の教科書①②③, **歴史**の教科書④⑤⑥の違いを知ろう
- (2) 先週の模造紙の周囲に, **目的を同じくしている教科書の構成**を貼り付けよう
- (3) **いずれかのパタンの授業を, 事例を差し替えてデザイン**しましょう(グループ活動)
  - 黒板バージョンを ppt のスライド1枚で作成  
スライドの上には, どのタイプを選択したかを明記
  - 締切は本日12:10までに草原のメアドに添付送付  
題目とfile名は「地歴1018-X」 Xは班の番号

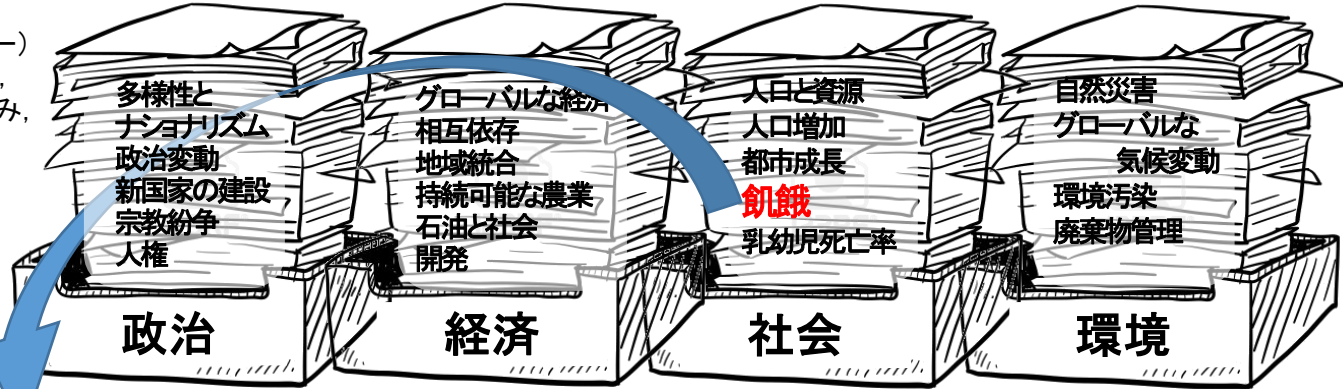
# 地理編

# 歴史編



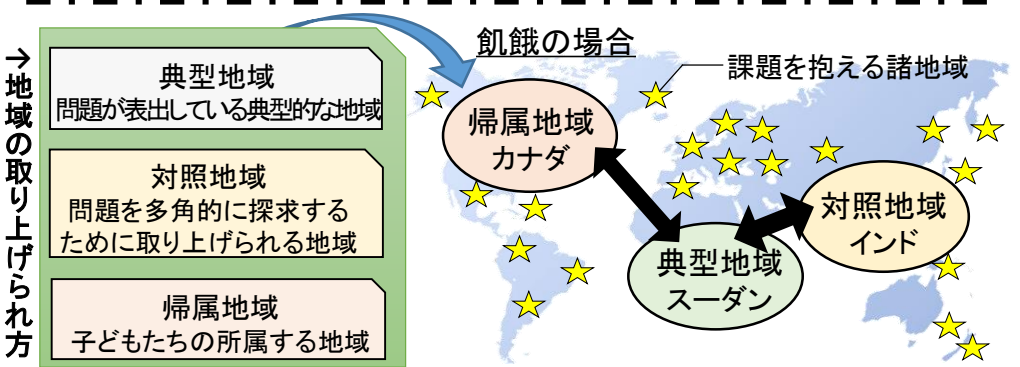
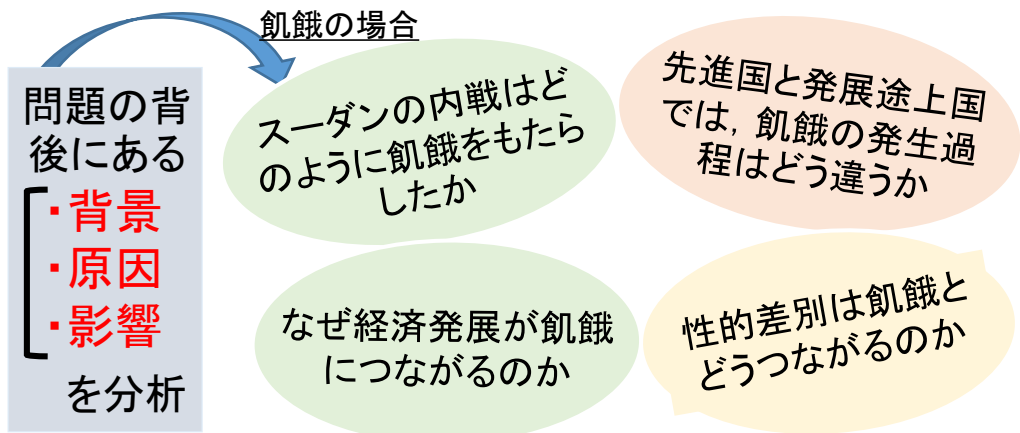


※グローバル問題(イシュー)  
国家や地域の枠を越えて、  
世界各地で共通して取り組み、  
解決すべき課題のこと



グローバル問題を解決  
するために、私たちは  
なにができるだろう？

Step 1 世界の 問題現象 の概観	小单元ごとの学習課題	学習内容	取り上げ る地域
	なぜアンゲロ・コールは 飢えているのか	飢餓の概念 と格差	
Step 2 問題の 個別分析	早魃は、どのようにして スーダンに飢えをもたらしたか		典型地域
	政治的経済的条件は、 どのようにしてスーダンに 飢えをもたらしたか	地域の飢餓	典型地域
Step 3 問題の 構造分析	スーダンは、どのようにすれば 食料上の保障がえられるか		典型地域
	カナダでは、なぜ飢えが 起こるのか	世界の飢餓	帰属地域
Step 4 問題解決 の方策決定	インドでは、なぜ飢えが 起こるのか	個人の飢餓	対照地域
	飢餓に対して 何を為すことができるか	飢餓のメカニ ズムと制御	



結果として、世界の諸地域をもれなく描き出すことが可能に。

① ヒル編『Geographic Inquiry into Global Issues (グローバル問題の地理的探求)』の内容構成

※草原和博「科学的社會認識形成のための地理教育」『地理教育内容編成論研究—社会科地理の成立根拠』風間書房、2004年、pp.269-293参照



学習者



### 探求テーマ

: 人間社会を構成している  
普遍的な社会機能・社会構造

第1単元 価値を構築する

第2単元 家族を組織する

第3単元 人間の欲求を充足する

第4単元 他者と観念を共有する

第5単元 規則を制定する

第6単元 人間の感情を表現する

### 取り扱う地理的事象

: テーマに応じて全地域から選別

カナダ, ポーランド, ナイジェリア, エジプト, アラビア半島など計20地域と合衆国

ジャマイカ, フランス, ケニア, イラン, パキスタン, 朝鮮など計15地域と合衆国

イスラエル, フランス, 西ドイツ, ケニア, サヘル, ソ連など計15地域と合衆国

カナダ, イギリス, アラブ世界, レバノン, パキスタン, 日本など計13地域と合衆国

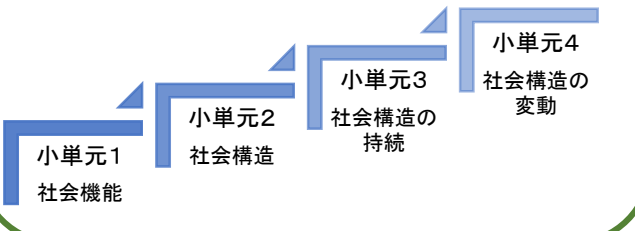
ハイチ, エクアドル, 西ドイツ, イラン, アルバニアなど計15地域と合衆国

コロンビア, 西アフリカ, ネパール, 韓国, アフガニスタンなど計13地域と合衆国

	事例研究のテーマ	事例研究で取り扱う地域
小単元1	①ハエ王	子どもの世界
	②酋長のセコトは裁判を司る	ボツワナ
	③バタブアーのヒヤシンス	バングラデシュ
	④にらみ合い	米国・ソ連
:	:	:

### 探求の方法の習得

: 地域を比較しながら人間社会や人間行動の一般性を発見する



結果として、世界の諸地域の地理を網羅的に学習することが可能に。

②

## バースティーン編『World Cultures (世界文化)』の内容構成

※草原和博「科学的社會認識形成のための地理教育」『地理教育内容編成論研究—社会科地理の成立根拠』風間書房, 2004年, pp.308-332参照








**第1单元**  
世界文化と  
地理への導入



地域研究の手法：社会諸科学の研究方法を活用

社会諸科学

 地理学
  経済学
  社会学・人類学  
 歴史学
  政治学
  法学・市民学

学習者



ex)第6单元

サハラ以南アフリカ

◎大陸・文化圏地域  
(サハラ以南アフリカ全体)

17章の1  地理学

17章の2  地理学

17章の3  歴史学

17章の4  法学・市民学

◎国家群地域  
(西部・中部アフリカ)

18章の1  政治学

18章の2  政治学

 社会学・人類学

取り扱う対象：世界の地域区分による大陸・国家の網羅

③

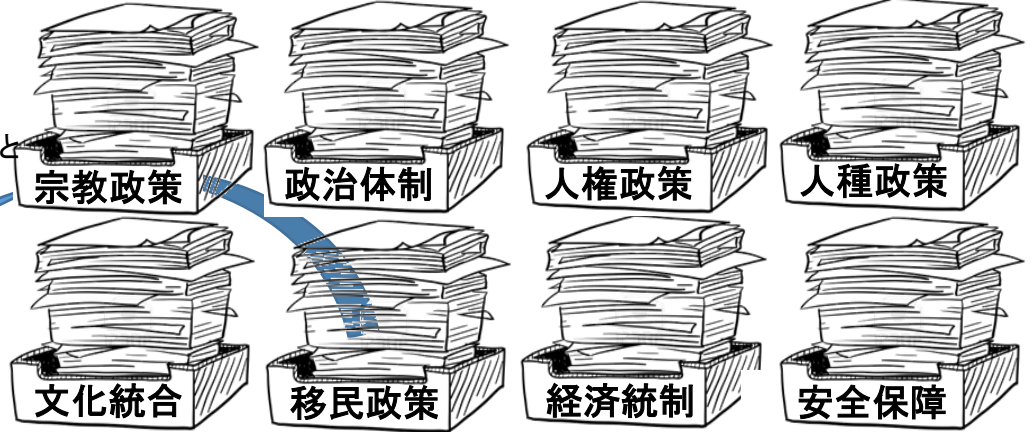
ベドナーツ編『World Cultures and Geography (世界文化と地理)』の内容構成

※草原和博「地理教育の公民教育化ー地域を単位にした総合的な社会研究ー」全国社会科教育学会『社会科研究』第66号, 2007年, pp.11-20参照



※取り上げられる8つの政治的課題の選択基準

- ① 今日の子どもを取りまく社会の「政治的規範」が、政策として確立された時代に立ち返ることができること
- ② 子どもにアメリカ史の全体像を描かせることができること



アメリカの論争問題を解決するために、私達は  
どう決断すべきだろう？

今日的論争  
政策そのものの是非を問う論争

過去における論争  
移民の扱いを規定する政策をめぐる論争

今日的論争  
移民政策の歴史的评价に関する論争

論争の内容	小單元ごとの学習課題	関連法規
パート1(第1章) 政策課題に関する論争	見解1-2 合衆国は移民を認めるべきか否か 見解3-4 アメリカは垣塙か否か	
パート2(第2章) 政策内容に関する論争	見解1-2 どのような思想を持った移民も受け入れる社会であるべきか否か :	1870年 帰化法etc.
パート3(第3章) 現状認識に関する論争	見解1-2 WASPと他人種の混血により、アメリカ人の能力は低下したか否か :	1907年 国外追放法etc.
パート4(第4章) 政策手段に関する論争	見解3-4 移民の入国条件として読み書きテストを課すべきか、否か :	1921年 移民制限法etc.
パート5(第5章) 政策評価に関する論争	見解1-2 合衆国における移民の経験は敵対感情を生むものであったか否か :	

歴史上、政策形成をめぐる対立した  
[見解・主張]を吟味

第4章: 見解3-4の場合

ロッジの見解はどのようなものか

ブレナンの見解の依拠する事実とは何か

どちらの見解のほうが説得力があるか

年代史 + 政策領域の歴史的な吟味

政策領域	対応する單元と年代
宗教政策	第1單元 ピューリタニズム(1519-1775)
政治体制	第2單元 アメリカ革命(1763-1783)
人権保障	第3單元 権利章典(1641-1991)
人種政策	第4單元 奴隷制(1619-1865)
文化統合	第5單元 アメリカのフロンティア(1763-1893)
移民政策	第6單元 移民(1565-1965)
経済統制	第7單元 大恐慌(1929-1945)
安全保障	第8單元 冷戦(1917-1991)



結果として、アメリカの歴史をもれなく描き出すことが可能に。

④ シャルバーグ編 『Opposing Viewpoints in US History(アメリカ史における対立する見解)』の内容構成

※溝口和宏『現代アメリカ歴史教育改革論研究』 風間書房, 2003年, pp.53-80参照

学習者



### 分析方法

: 社会諸科学

第2章 地理学

第3章 人類学  
社会学

第4章 経済学

第5章 政治学(国内)

第6章 政治学(国際)

第7章 人類学

第8章 社会学

第9章 人類学  
経済学  
社会学

### 第1章 歴史学

#### 分析方法の習得



I 過去の再構成方法

II 証拠の使用法(信頼性の判断)

III 事象を時系列に位置づける方法

IV 歴史の解釈方法

V 歴史家の解釈の分析・判断方法

### 研究対象

: 人と人, 人と環境の  
関わり(社会システム)

自然と社会システム

社会の制度的側面  
(文化的秩序)

社会の制度的側面  
(経済的秩序)

社会の制度的側面  
(政治的秩序)

形成されたシステムの変動  
(文化の変動)

形成されたシステムの変動  
(社会の変動)

社会システムの類似と相違  
(2つの社会の比較研究)

### 取り扱う歴史的事象

: テーマに応じて学習内容を  
全ての地域・時代から選別

∴	∴	事例研究のテーマ	事例研究で取扱う時代と場所
第5章	第1節	ルイ14世の政治	フランス, 17~18c
		ムスタファ2世の政治	オスマン帝国, 17~18c
		連邦議会の政治	アメリカ, 20c
	第2節	源頼朝の政治	日本, 12c
		∴	∴
		カストロの政治	キューバ, 20c
ペリクレスの政治		アテネ, 前5c	
		始皇帝の政治	中国, 前3c
		ヒトラーの政治	ドイツ, 20c
		∴	∴
∴	∴	∴	∴



結果として, 世界の諸地域の歴史を網羅的に学習することが可能に。

5

## マシャラス編『World History Through Inquiry (探求による世界史)』の内容構成

※山田秀和「社会システム論を基盤とする世界史過程編成—B.G.マシャラス編『探求による世界史』を手掛かりとして—」

中国四国教育学会『教育学研究紀要』第46巻第2部, 2000年, pp.159-164参照



学習者

導入単元  
「歴史学習  
の導入」

# 時代研究の手法：社会諸科学の研究方法を活用



分析視点  
(取り扱う社会  
科学の概念)

政治領域(政治学etc.)

①意思決定 ②市民性

経済領域  
(経済学etc.)

③資源 ④流通

社会・文化領域  
(社会学etc.)

⑤規範 ⑥社会階級



分析方法  
(社会科学の  
探求方法)

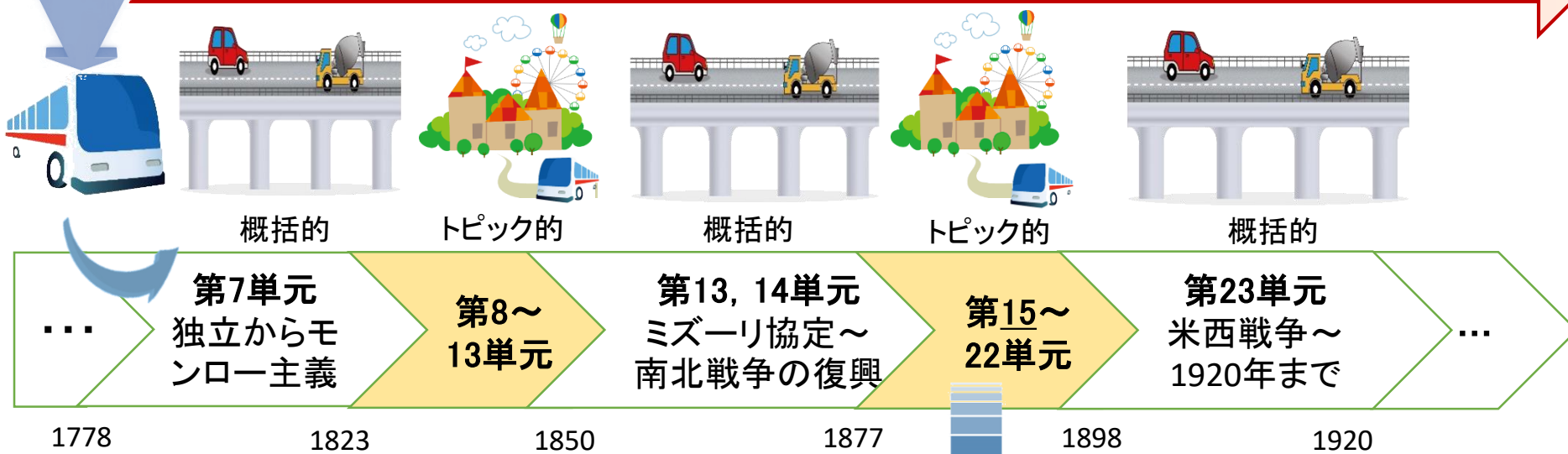
ツールⅠ  
情報の分類

ツールⅢ  
仮説設定

ツールⅡ  
過去の探求

ツールⅣ  
仮説修正

## 取り扱う対象：米国史の時代区分による出来事・流れの網羅



ex) 第15単元  
産業の成長



経済領域  
(経済学etc.)



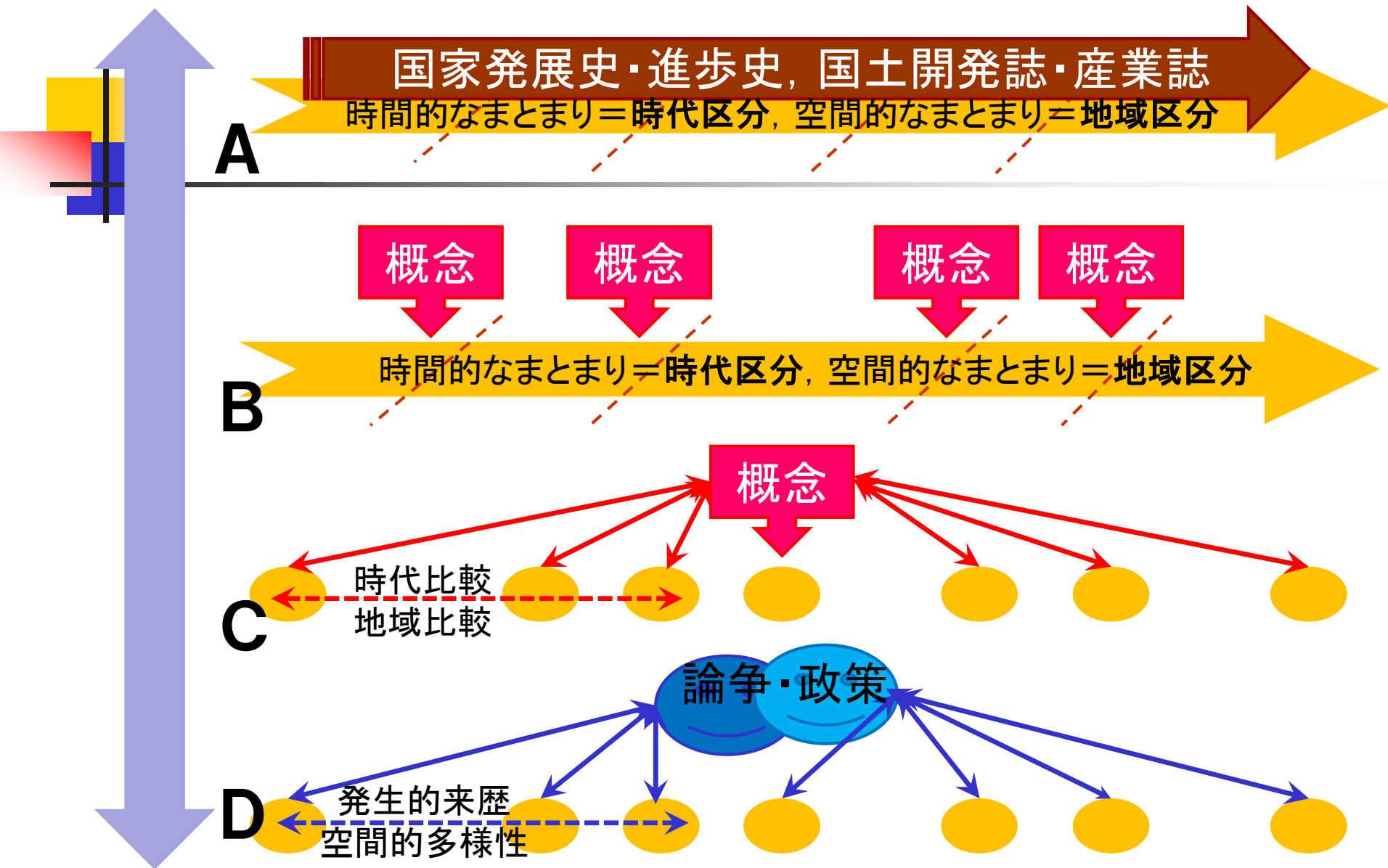
第57章 ツールⅠ, Ⅲ 第59章 ツールⅣ  
第58章 ツールⅡ 第60章 ツールⅡ, Ⅳ

## ⑥ フェントン編『A New History of the United States(新合衆国史)』の内容構成

※山田秀和「歴史教育における価値注入回避の論理—中等ホルト社会科『新合衆国史を手がかりとして』

日本教科教育学会『日本教科教育学会誌』第30巻4号, 2008年, pp.79-88参照

# 内容の体系を優先→分化カリキュラムへ



# 教育の目的を優先→統合カリキュラムへ



歴史とは歴史家と事実との相互作用の不断の過程であり、**現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話**なのであります。(E.H.カー)

**必読です。  
とくに地歴の  
教師を目指す  
若者は…**

